

SCG084-P07

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

北海道幌延町の沿岸域における大深度オールコアボーリングの地質

Geology of deep all core drilling in coastal area, Horonobe, Hokkaido

萩原育夫², 丸井敦尚¹, 町田 功¹, 井川 怜欧¹, 越谷 賢^{1*}, 吉澤 拓也¹, 西崎聖史¹, 伊藤 成輝¹,
佐々木勝司², 近藤 はるか², 吉岡正光²

Ikuo Hagiwara², Atsunao Marui¹, Isao Machida¹, Reo Ikawa¹, Masaru Koshigai^{1*},
Takuya Yoshizawa¹, Seiji Nishizaki¹, Narimitsu Ito¹, Katsuji Sasaki², Haruka Kondo²,
Masamitsu Yoshioka²

¹産総研, ²サンコーコンサルタント株式会社

¹GSJ, AIST, ²Suncoh Consultants Co., Ltd.

沿岸域の深部地下水に対する社会的要求は、地下空間の利用や未利用資源の開発において大きい。また、沿岸域の深部地下水は海水準の変動などの複雑な自然環境の変遷を経て形成されたと考えられ、その形成プロセスの解明は地下水学における重要な研究テーマの一つである。産業技術総合研究所は、沿岸域における深部地下水の長期的安定性やその形成プロセスを明らかにするため、北海道天塩郡幌延町で深度1,000m以上のオールコアボーリングを実施している。研究地は、天塩平野の沿岸に発達する砂丘に位置し、厚さ85m程の沖積層の下位に下部更新統～鮮新統の更別層、勇知層が分布する。これまで、深度158～400m間のオールコアリングを行い、30～50m間隔で砂礫～泥のサイクルが繰り返す更別層が確認された。採取されたコアは、間隙水の抽出・分析などの室内試験を行っている。このうち、本報では堆積相解析と地質分析（微化石分析、テフラ分析、CNS元素分析）との結果を報告する。

キーワード:沿岸域,深層オールコアボーリング,堆積相解析,微化石分析,テフラ分析, CNS元素分析

Keywords: Coastal area, Deep all core drilling, Sedimentary facies analysis, Micro fossil analysis, Tephra analysis, CNS elemental analysis